

英語教員 向けガイド

テスト形式、採点方法、
生徒の指導方法

IELTS™



ielts.org

目次

- セクション 1 IELTS試験の概要
- セクション 2 IELTSテストフォーマット (ペーパーまたはコンピューター)
- セクション 3 IELTSスコアと解釈
- セクション 4 グローバルな英語検定試験としてのIELTS
- セクション 5 英語教員への指導アドバイス
- セクション 6 IELTS試験官になるには
- セクション 7 リサーチに基づく継続的な改良
- 付録 i IELTS評価基準 (バンド解説)
- 付録 ii IELTS とヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages) との対照表について
- 付録 iii 英語教員向け資料
- 付録 iv 受験者指導方法

「IELTSは生徒に自信を
与えます。」

インド
ターニングポイント (学校)
主任教諭



1 IELTS 概要

IELTS (The International English Language Testing System) は、英語圏で就学や就労を目指す方の英語能力測定を目的として考案された試験です。高い信頼性と定評を得た評価方法に基づき、エキスパート・ユーザーから非ユーザーまでの幅広いレベルで、言語能力を公正、正確、適正に評価します。

IELTSには、アカデミック (Academic) とジェネラル・トレーニング (General Training) の2種類のバージョンがあります。どちらのテストでも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つの英語技能が判定されます。

IELTSの成績は、シンプルで分かりやすい9段階評価で示されます。この評価方法は、過去30年間で定着し世界各国で活用されています。

- IELTSは世界で最も受験者数の多い英語試験で、昨年の受験者数は350万人を超えました。
- IELTSは、世界140か国以上の10,000を超える機関で認定、採用され、選考の際に利用されています。
- IELTSは世界各国の1,600以上の試験会場で実施されています。
- IELTSの試験問題は、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、イギリス、アメリカの試験専門家が作成しています。
- IELTSの試験問題は、世界各国の実践的な題材から出題されています。

IELTSと英語教員

IELTSは、世界各国の英語教員の間で認知度が高く、信頼を得ています。

この英語教員向けガイドは、テスト詳細、テストスコアの詳細解説、IELTS受験者の試験準備に役立つリソースを提供します。

また、IELTS examining and researchが提供する、英語教員のキャリアに関する情報も提供しています。

IELTS for UK Visas and Immigration

英国ビザ取得および移住を目的にIELTSを受験される場合は、ielts.org/unitedkingdomを予めご確認ください。英国への渡航や滞在に関する詳細は、visit.gov.ukをご覧ください。

特定の英国ビザ申請を対象としたテスト、IELTS Life Skillsに関する情報はielts.orgをご確認ください。

英語教員向け教材やアドバイスはielts.org/teachersをご覧ください。

2

IELTSテストフォーマット (ペーパーまたは コンピューター)

「他の英語試験も認めてはおりませんが、常にIELTSの必要点数と直接比較して評価を行っております。IELTSテスト受験者は学業に必要な4つの主なコミュニケーション技能を余すところなくテストされています。」

英国
スコティッシュ・アグリカルチュラル・カレッジ
主任入試担当官

英語教員向け情報および資料はielts.org/teachersにて閲覧して頂けます。

テストの概要

受験者は、進学、就職、ビザ取得などの目的にあわせてIELTSアカデミック (Academic) とIELTSジェネラル・トレーニング (General Training) のいずれかを選択することが可能です。

この2つのテストの違いは、IELTSアカデミックのリーディングおよびライティング問題のテーマやタスクが、大学や大学院に入学する受験生向けとなっている点です。リスニングとスピーキングはIELTSアカデミックとジェネラル・トレーニングテストで共通です。

リスニング 30分

受験者は、様々なネイティブスピーカーの話す文章、朗読、会話の4つの録音音声聞き、一連の質問に対し解答します。

リーディング 60分

アカデミックテストでは、説明的で事実を述べるものから推論的で分析を要するものまで幅広く3つの長文が出題されます。文章は、実際に使用されている書籍、定期刊行物、雑誌、新聞からの引用で、普遍的で学術的な内容です。専門知識を有しない一般を対象として出題されています。

ジェネラル・トレーニングテストでは、新聞、広告、説明マニュアル、書籍から引用された文章を読みます。これらは、受験者が英語圏で日常的に接する類の文章です。

ライティング 60分

アカデミックテストは2つのパートに分かれています。一般的なテーマから出題され、大学や大学院に入学する受験生や職業登録を予定する受験者に適しています。

タスク1

グラフ、表、図が提示され、情報を自分の言葉で描写、要約、説明するよう求められます。データを言葉で表して説明したり、プロセス過程や仕組みを説明したり、オブジェクトや事象を説明したりすることが求められることもあります。

タスク2

受験者は、ある見解、議論、問題に対する意見をエッセイに書くよう求められます。

どちらのタスクにおいても、アカデミックもしくは、セミフォーマルでニュートラルな文体で記述する必要があります。

ジェネラル・トレーニングテストも2つのパートに分かれており、一般的なテーマから出題されます。

タスク1

与えられた状況にあわせて情報を要求したり、状況を説明する手紙を書くように求められます。手紙は、個人的なものである場合もあれば、セミフォーマル、フォーマルな文体を求められる場合があります。

タスク2

受験者は、ある見解、議論、問題に対する意見をエッセイに書くよう求められます。アカデミックライティングのタスク2と比較すると、少し個人的な文体でも構いません。

スピーキング 11-14分

受験者のスピーキング能力を測るのに最も効果的であることから、試験官と対面インタビュー形式で行われます。このセクションは11~14分間で実施されます。テストは全て電子録音され、3つのパートで構成されます。

パート1

受験者自身や、身近なテーマ (家、家族、仕事、学業、興味など) に関する一般的な質問に答えます。このパートは4~5分です。

パート2

試験官から、特定のテーマについてのタスクカードが渡されます。1分間の準備時間の後、テーマについて最大2分間話します。このパートの終わりに試験官から1つか2つテーマに合った質問をされることがあります。

パート3

受験者は、パート2のテーマに関連するその他の質問を受けます。受験者は、より概念的な問題と意見について述べる機会が与えられます。このパートの時間は4~5分です。

スピーキングテストの形式は、アカデミックとジェネラル・トレーニングの両方のテストで同じです。受験者が予め練習した定型解答ができないように構成されています。



詳細情報

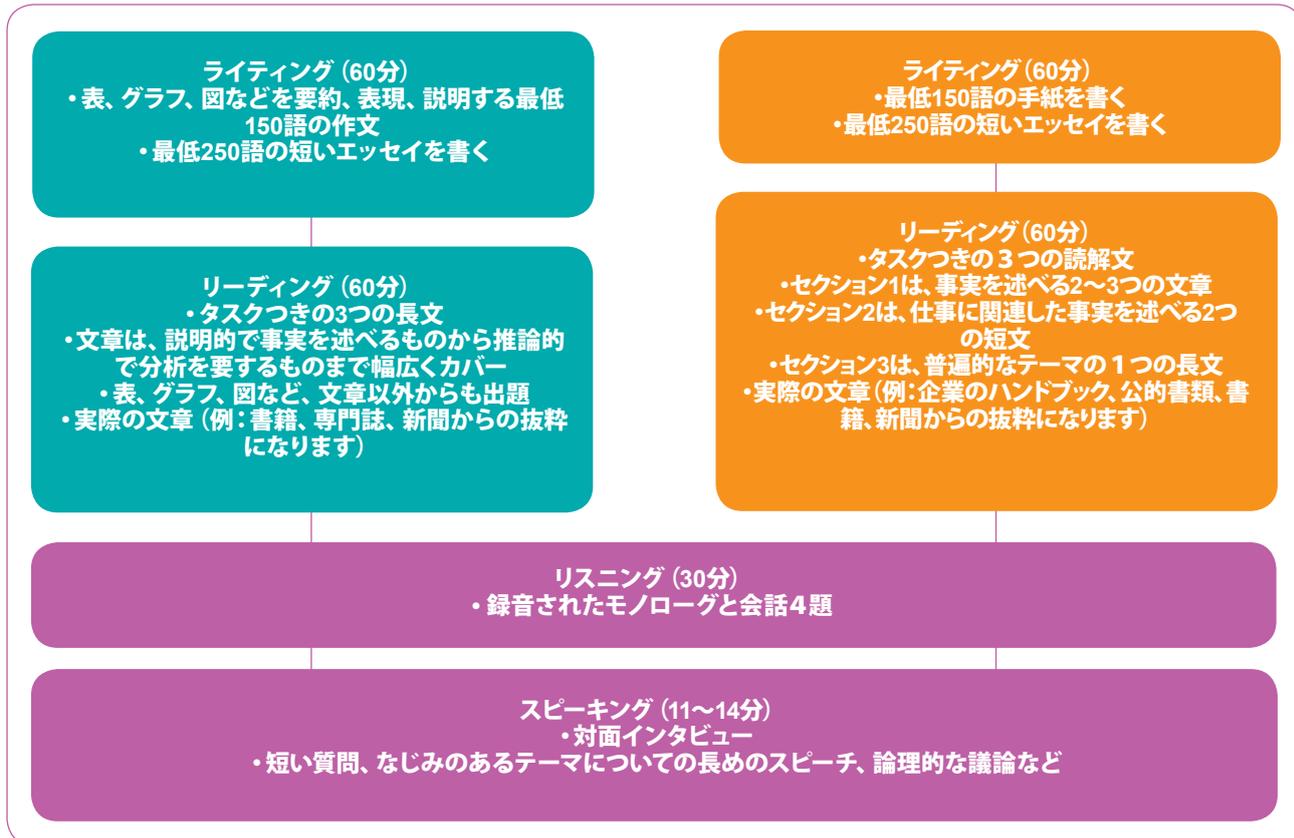
IELTS試験成績を認定している機関は、ielts.org/institutions のIELTS Guide for Institutions (団体向けIELTSガイド) でご確認頂けます。

IELTSアカデミック

IELTSアカデミックは、学業、高等教育において必要な英語能力を測ります。タスクと文章は、専攻学科に関係なく、全ての受験者にとってなじみやすいものになっています。

IELTSジェネラル・トレーニング

IELTSジェネラル・トレーニングは、実践的、日常的な場面で必要な英語能力を測ります。タスクと文章は、職場や社会における場面を反映したものになっています。



※ 上記のチャートはペーパーで受験する場合の順番です。コンピューターで受験する場合は、リスニング、リーディング、ライティングの順番となります。

主な類似点

- ・リスニングとスピーキングは両方のテストで共通です。アカデミックとジェネラルのリテラシーの違いは、本来リーディング能力とライティング能力に関し、際立っているとされています。より社会指向的な言語能力であるリスニングとスピーキングは、学業や職業の場面で、同様に重要と言えます。
- ・ジェネラル・トレーニングとアカデミックのテストの両方で、リスニングとスピーキングに割り当てられる時間は同じです。
- ・両方のテストで、リーディングとライティングのセクションの長さは同じです。
- ・両方のテストで、必要最低語数は同じです。
- ・両方のテストで、同一の採点基準と9つのバンドスコアが採点に使用されます。

テスト形式の詳細は、The Guide for educational institutions, governments, professional bodies and commercial organisations「教育機関、政府、職業専門機関、営利団体向けガイド」及び受験者情報小冊子Information for Candidates「受験者の方へIELTSのご紹介」に掲載されており、どちらもielts.orgで入手可能です。

相違点

- ・ジェネラル・トレーニングとアカデミックのテストのリーディングセクションにおける相違点は以下の通りです。
- ・使用される文章 (テーマ、ジャンル、長さ、数等)
- ・40のテスト項目の難易度。アカデミックのリーディングではバンドスコアの5~8に属する項目が多いのに対し、ジェネラル・トレーニングではそれがバンドスコアの3~6になります。アカデミックとジェネラル・トレーニングで求められる内容が違うことを反映しています。

- ・ライティングでは、ジェネラル・トレーニングとアカデミックのテストの相違点は以下の通りです。
- ・2つのライティングタスクの内容と性質
- ・タスクのコンテクスチュアルパラメーター

上記に記載するレベルの相違もあり、アカデミックとジェネラル・トレーニングのリーディングとライティングのスコアの置き換えは出来ません。

2つのテストフォーマット (ペーパーまたはコンピューター)



IELTSは、受験者により多くの選択肢を与えるため、コンピューターもしくはペーパーのいずれかのフォーマットで受験できます。

ペーパーで受験する IELTS

このテストでは、リスニング、リーディング、ライティングのテスト用の質問用紙と解答用紙が与えられ、IELTS公式テストセンターで机に座って行います。受験者は、ペンもしくはHBの鉛筆で解答を書きます。

コンピューターで受験する IELTS

このテストでは、IELTS公式テストセンターで、リスニング、リーディング、ライティングのテストをコンピューターで受け、質問がスクリーン上に表示されます。受験者は、キーボードとマウスを使用して解答します。スピーキングテストはコンピューターではなく、トレーニングを受けたIELTS試験官と対面式で行います。

信頼性の高いIELTSであることに変わりはありません

IELTSをペーパーで受験してもコンピューターで受験しても信頼性の高い英語能力試験を受験していることには変わりはなく、受験者のみなさまにご安心いただけます。

- 内容
- 試験時間
- 構成
- 採点基準
- 質問タイプ
- セキュリティ
- スピーキングテスト
- 成績証明書

IELTSアカデミックでもジェネラル・トレーニングでも、ペーパーとコンピューターのいずれかを選択できます。

受験者はペーパーもしくはコンピューターのどちらで受験したらよいのでしょうか？

個人の選択にゆだねられます。ペーパーで受験することに慣れている方もいれば、タイピングもしくはコンピューターでの受験に慣れている方、様々です。ielts.orgに両方の選択肢についての詳細情報が掲載されており、もっと詳しい情報が必要な場合にはテストセンターに連絡して頂くことも可能です。

IELTS試験結果確認サービスについては変更はありますか？

変更はありません。IELTS試験結果確認サービスは今まで通りの運用です。コンピューター受験の導入が進められるとともに、現行サービスの向上についても引き続き検討しております。

受験者用の対策資料はありますか？

ielts.org/oncomputerに練習問題と対策資料があります

コンピューターのIELTSはペーパーのIELTSより難しいですか？

差はありません。内容、採点基準、難易度、質問タイプにおいて、ペーパーと同一です。

コンピューターで受験するIELTSについての詳細情報は、ielts.org/oncomputer/にてご確認頂けます。

4技能のテスト

IELTSは、4つの英語技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）を網羅する、タスクによるテストです。IELTS受験者は、4セクションの個別スコアを受け取ります。4つの平均が総合バンドスコアとなります。

4つの各セクションは、それぞれの技能が評価されるように細心の注意をもって考案されています。これにより、毎年作成されるさまざまなテストの中でタスクの難易度を簡単に調整でき、複数の技能を同時に評価する他のテストと比較しても、公平といえるテスト設計になっています。

英語能力の測定基準としてIELTSを採用する組織は、テストのそれぞれのセクションの取得スコアに受験者の各スキル能力が明瞭公正に反映されるという信頼感から生じるプラス効果を得られます。

これは、ある技能が他の技能より大切であるとみなされる学業および職業の場において特に重要です。

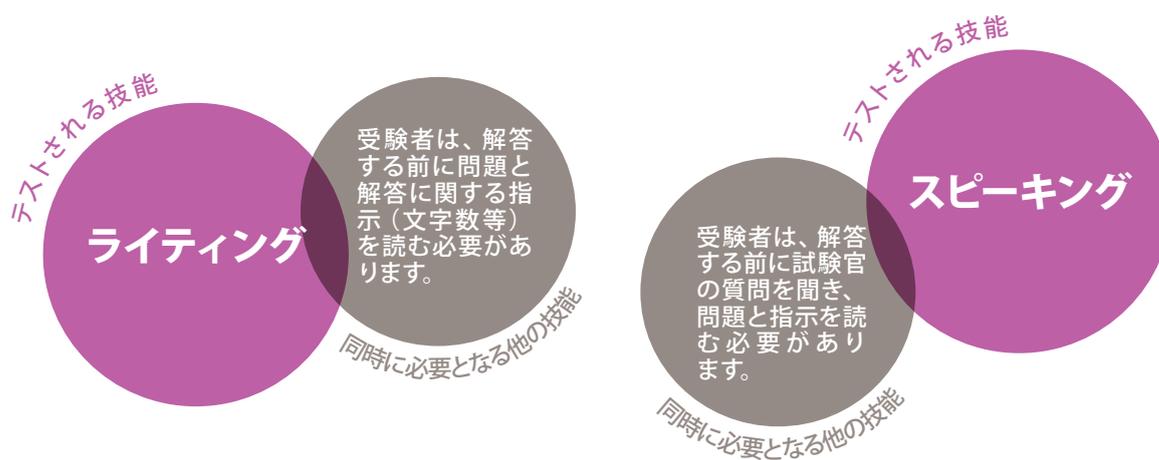
例えばカナダでは、看護師はIELTSスピーキングおよびライティングテストの高いバンドスコア、オーストラリアの教師はIELTSスピーキングおよびリスニングテストの高いスコアが必要とされています。

IELTSは4技能を個別にテストすることに注力していますが、実社会における英語技能が包括的なものであると同様、当然のことながら各セクションにも包括的な要素があります。テストタスクにおいては他の技能の使用を伴い、そのため、たとえば以下のようにある程度「包括的」になっています。

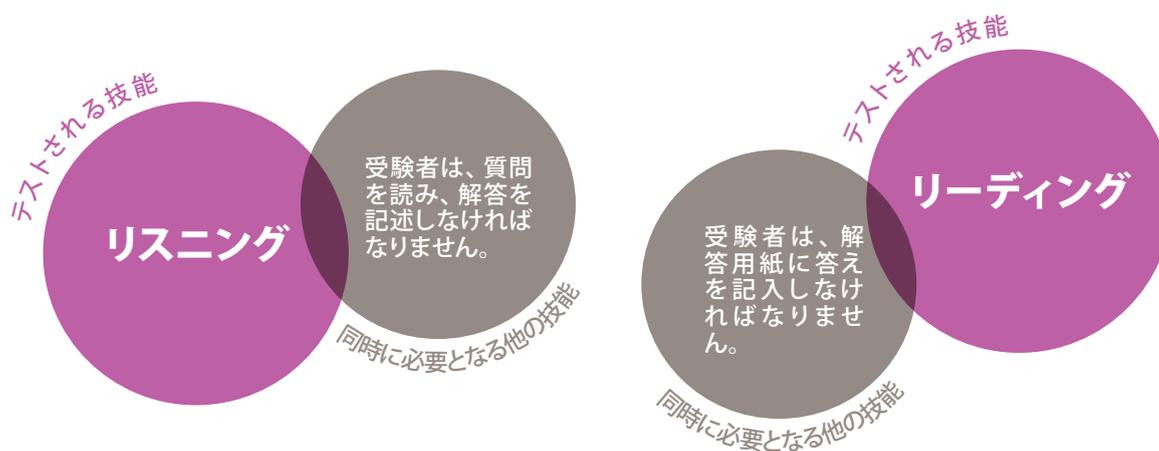
- ライティングとスピーキングのセクションでも、読み聞きする情報は、受験者自身の解答を作成する助けになります。しかし、タスクの実行のために大量のもしくは複雑なリーディング、リスニングを求められることがないように慎重に調整しなければなりません。各技能のスコアが成績証明書に記録されることもあり、この点は非常に重要で、他の技能が劣るがゆえに、ある技能分野での成績が影響されてしまうとすれば、受験者にとって公正を欠くこととなります。
- リーディングおよびリスニングセクションのタスクには、メモ作成、ラベリング、表やフローチャートの作成も含まれます。ただ、タスクやテスト項目は、リーディングやリスニングに重点を置くべきであり、細かな記述を必要とするべきではありません。



アウトプット技能



インプット技能



3

IELTS スコアと 解釈

9	エキスパート ユーザー	英語を自由自在に使いこなす能力を有する。適切、正確、流暢、完全な理解力もある。
8	非常に優秀な ユーザー	不正確さや不適切さがみられるが、英語を自由自在に使いこなす能力を有している。慣れない状況下では誤解が生ずる可能性もある。込み入った議論にも対応できる。
7	優秀なユーザー	不正確さや不適切さがみられ、また状況によっては誤解が生ずる可能性もあるが、英語を使いこなす能力を有する。複雑な言葉遣いにも概ね対応でき、詳細な論理を理解できる。
6	有能なユーザー	不正確さ、不適切さ、誤解もみられるが、概ね効果的に英語を使いこなす能力を有する。特に、慣れた状況下では、かなり複雑な言葉遣いの使用と理解ができる。
5	中程度の ユーザー	不完全だが英語を使う能力を有しており、ほとんどの状況でおおまかな意味を把握することができる。ただし、間違えることも多い。自身の専門分野では、基本的なコミュニケーションを取ることが可能。
4	限定的な ユーザー	慣れた状況においてのみ、基本的能力を発揮できる。理解力、表現力の問題が頻繁にみられる。複雑な言葉遣いはできない。
3	非常に限定的な ユーザー	非常に慣れた状況において、一般的な意味のみを伝え、理解することができる。コミュニケーションの断絶が頻発する。
2	散発的ユーザー	慣れた状況下で、その場の必要性に対処するため、極めて基本的な情報を片言で伝える以外、現実的にコミュニケーションをとることは不可能。英語の会話や文章を理解することは困難である。
1	非ユーザー	単語の羅列のみで、基本的に英語を使用する能力を有していない。
0	試験放棄	必要情報が提供されていない。

IELTS 9段階評価

IELTSテストには合格、不合格がありません。各バンドスコアは、英語使用能力のレベルを表します。セクション毎およびオーバーオール・バンドスコアは、1もしくは0.5刻み（例えば7.0、8.5など）で示されます。

受験者は、オーバーオール・バンドスコアと各テストセクション（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）ごとの個別バンドスコアを受け取ります。

IELTSテストは、受験者のある時点の英語技能と能力を正確に反映します。使用しない場合には当然のことながら技能と能力は時間の経過とともに減退します。英語のレベル維持もしくは改善に積極的に取り組んでいるという証拠を提出しない限り、2年以上前の成績証明書を受け付けられないよう推奨します。

IELTSの成績について

受験者は、1から9までの段階評価成績を受け取ります。各技能ごとのスコアがレポートされます。4つの個別点数が平均されたものがオーバーオール・バンドスコアとなります。オーバーオール・バンドスコアと各セクション（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）のスコアは、1もしくは0.5刻みでレポートされます。

オーバーオール・バンドスコア

受験者は、オーバーオール・バンドスコアと各セクション（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）ごとの区分スコアが記載されたテスト成績表を受領します。各セクションの加点比重は同じです。4つの個別点数の平均を計算してオーバーオール・バンドスコアとします。

オーバーオール・バンドスコアは、1もしくは0.5刻みの最も近い点数でレポートされます。以下の手順で切上げ切捨てを行います。すなわち、4つの技能の平均点の小数点以下の数字が0.25の場合には切り上げられてすぐ上の0.5刻みのバンド、小数点以下の数字が0.75の場合には切り上げられてその上の1刻みのバンドになります。

そのため、受験者がリスニングで6.5、リーディングで6.5、ライティングで5.0、スピーキングで7.0の点数だったとすると、オーバーオール・バンドスコアは6.5となります（ $25 \div 4 = 6.25 = \text{バンド}6.5$ ）。同様に、受験者がリスニングで4.0、リーディングで3.5、ライティングで4.0、スピーキングで4.0の点数だったとすると、オーバーオール・バンドスコアは4.0となります（ $15.5 \div 4 = 3.875 = \text{バンド}4.0$ ）。

一方で、受験者がリスニングで6.5、リーディングで6.5、ライティングで5.5、スピーキングで6.0の点数だったとすると、オーバーオール・バンドスコアは6.0となります（ $24.5 \div 4 = 6.125 = \text{バンド}6.0$ ）。

IELTSの採点方法

IELTS成績は9段階評価で示されます。アカデミックとジェネラル・トレーニングテストでは、同一の評価基準が使用されます。

- リスニングとスピーキングに使用されるタスクと採点基準は、IELTSアカデミックとIELTSジェネラル・トレーニングで同一です。学術研究や職業の場では、社会指向の強いリスニングおよびスピーキングの英語技能が同等に重要になります。
- IELTSアカデミックとIELTSジェネラル・トレーニングのリーディングとライティングセクションにおいては、タスク、テスト内容、採点方法が異なります。これは従来、アカデミックとジェネラルトレーニングのリテラシーにおける違いが、リーディング能力とライティング能力においてより際立っているとされているためです。

認定機関のIELTSバンドスコア要件の設定について

IELTSテストのスコアは、受験者の入学適性もしくは就職の採用評価項目のひとつにすぎません。受験者が学業、仕事、トレーニングを効果的に行うのに必要な英語のレベルは状況により異なります。そのため、各々の組織は受験者に対し、必要条件と照合して独自の最低IELTSスコアを設定しています。入試及び採用担当者はまた、学生や従業員に対し、英語力向上を目的とする語学サポートを継続的に実施するのかどうかについても考慮する必要があります。

IELTS Scores Guide「IELTSスコアガイド」には、試験の各技能別の詳細説明やサンプルテストが掲載されています。また、バンドスコアのレベルごとに受験生のライティングやスピーキングの成績の実例も紹介されています。冊子は、ielts.orgを通じて入手することができます。

IELTSオンライン解説 (ielts.org/online-tutorial) では、テスト開発、採点評価、スコア計算の概要を説明しています。

リスニング

IELTSリスニングテストでは40の質問が出題されます。正答1問につき1点が加算されます。この実得点に基づき、1から9段階のバンドスコアが受験生に与えられます。

バンドスコア	40点満点中の実得点
8	35
7	30
6	23
5	16

ライティング

試験官は、細分化された採点基準表を使用し、4項目の評価基準に対するバンドスコアを採点します。

評価基準	配点比率
課題の達成度 (タスク1) / 課題に対する解答 (タスク2)	25%
一貫性とまとまり	25%
語彙力	25%
文法知識と正確さ	25%

リーディング

IELTSリーディングテストでは40の質問が出題されます。正答1問につき1点が加算されます。この実得点に基づき、1から9段階のバンドスコアが受験生に与えられます。

バンドスコア	40点満点中の実得点
8	35
7	30
6	23
5	15

スピーキング

試験官は、細分化された採点基準表を使用し、4項目の評価基準に対するバンドスコアを採点します。

評価基準	配点比率
流暢さと一貫性	25%
語彙力	25%
文法知識と正確さ	25%
発音	25%

バンドスコア幅の設定について

IELTSの試験資料は、実際に試験として公開する前に事前検証を行い、基準を確定していますが、どうしても試験ごとに難易度に若干の違いが出てしまいます。そこで、試験の均等化の為、受験者の成績が同じような範囲で分布するようにバンドスコア幅を設定しています。これは、例えば、個々の試験で、バンド6の幅がわずかながら違う実得点で設定されるといったことになります。

「IELTSでは入試合格レベルが一目瞭然です。他のテストではこうはいきません。」

英国
キングス・カレッジ



4

IELTSは グローバルな 英語能力テスト

「新しい仕事を始める前に雇用主からの指示でIELTSアカデミックを受験し、バンドスコア8.5を取得しビザ基準をクリアしました。IELTSで世界をより身近に感じます。」

オーストラリア
大手会計事務所
パベル
(追加で受けたIELTSアカデミックテストでバンドスコア
8.5を取得)



インターナショナル・パートナー

IELTSは、教育と言語のエキスパートであるグローバル・パートナー、ブリティッシュ・カウンシル、IDP:IELTS Australia、ケンブリッジ大学英語検定機構が所有しています。これらの機関は、優れた学術研究、文化理解、生徒募集、成功の創出の為に日々研鑽を重ねています。IELTSテストは、ケンブリッジ大学英語検定機構による世界でも認知度の高い評価と研究の専門知識と、ブリティッシュ・カウンシルとIDP:IELTS Australiaの国際展開、評価、セキュリティの専門知識を組み合わせています。

インターナショナル・コンサルティング

IELTSは、世界中の学術機関、職業機関、移民局との協力により発展してきました。

グローバルな内容

IELTSの手法は、国籍、文化背景、性別、特別配慮事項にかかわらず、全ての受験者にとり公正で信頼性が高く有効であると、学術関係者や入試関係者から認知されています。オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、イギリス、アメリカの試験問題担当者が試験問題作成にあたっています。

グローバル展開と利便性

IELTSは140以上の国の1,600以上の会場においてひと月に最大4回実施されています。受験費用は国ごとで設定され、現地通貨での支払いのため、受験者にとって申し込みに便利です。ペーパーで受験するIELTSは試験後13日後、コンピューターで受験するIELTSは試験後5～7日後に結果が発行されます。成績証明書は、IELTSテストセンターから直接団体機関に、郵送もしくは電子ダウンロードの形で送付することも可能です（受験者がこの方法を選択し、送付先を指定した場合）。

世界各地のIELTSテストセンターの一覧は、ielts.org/testcentresにてご確認ください。

IELTS USA

IELTSは、IELTSを使用して国外出願者の英語能力を測定するアメリカ国内の組織をサポートしています。IELTS USAはアメリカ国内のIELTSテスト運営も行っています。

グローバルな英語

IELTSは、イギリスとアメリカの英語の綴り、文法、単語の選択を採用しています。また、リスニングのセクションでは、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、イギリス、アメリカのネイティブ・スピーカーのアクセントを使用しています。

海外移住者や海外留学生の数は過去30年間に何倍にも増えています。これにより、教育機関での日常は様変わりしました。

英語圏では、多くの大学が様々な国の職員を採用しており、非英語圏からの留学生受け入れ数増加とも比例しています。同時に、非英語圏では共通コミュニケーション用語として英語を採用する機関が多くなり、また、英語圏からの職員採用も増加しています。結果として、様々な英語を話す人々と一緒に教えたり、勉強したり、働いたりする人が増えています。



5

英語教員への 指導アドバイス

IELTS成績のレポート方法では、英語学習者のどの分野での技能を伸ばす必要があるのかが教員にとって一目瞭然であり、学習者によりクリアな目標設定をしてもらうのに役立ちます。IELTSの指導技術には、文法や語彙などの言語要素をより広い場面で提示することが含まれます。

IELTSのテーマは興味深く、時事的、実践的です。つまり教員は実際に使用されている文章などからテスト準備用に教材を編集することで、日常生活で使用する英語をIELTSの授業で活用することができます。



英語教員への指導アドバイス

1

リスニング

生徒が以下を実行しているか確認してください。

- リスニングに入る前に、どのような場面なのかを考え、聞き取る必要のある情報の種類を理解しているか
- 文章を聞く前に質問を読み、各セクションの間の時間を利用して次のセクションの準備をしているか

2

リーディング

生徒が以下を実行しているか確認してください。

- スキミングやスキニングなどの読解テクニックを駆使しているか。1時間で全ての質問に解答するには上記テクニックを使用することが必要
- 各タイプのリーディング・タスクはどんなアプローチ方法がベストなのかを理解しているか
- 制限時間内に質問に解答し、解答を解答シートに記入しているか

3

ライティング

生徒が以下を実行しているか確認してください。

- 解答を書き始める前に、質問を慎重に分析し、計画立てているか
- 解答する際、読者を想定し、目的を念頭に置いているか
- 論理的、明瞭に文章を構成しているか
- タスク2において、賛否を決定し、論点を裏付ける例や根拠を使用しているか

4

スピーキング

生徒が以下を実行しているか確認してください。

- 自信を持って堂々としているか。リラックスして試験官と楽しく会話するように促す
- 答える前に「考える時間」が必要な場合、つなぎ言葉で間を持たせているか
- 評価対象となるのは意見ではなく、言語レベルであることを意識しているか

5

全般

生徒が以下を実行しているか確認してください。

- IELTSテストの各セクションにおけるタスクの形式や種類についてよく理解しているか
- 何を期待されているのかを理解し、各セクションにおけるベストなアプローチ方法を理解しているか
- 授業でも各セクションの時間制限を念頭に置いて演習を行う
- 指示を注意深く読み、それに従っているか
- 評価基準についてよく理解しているか

上記のヒントは、ペーパーおよびコンピューター、両方の受験者に共通のアドバイスです。

「IELTS受験者は英語能力の客観的評価を受けることができ、どこを重点的に学習しないといけないのかがはっきり分かるので良いです。」

リンデル・キング
教師



6

IELTS試験官になるには

「授業の中で生徒達と活発なやり取りができるので、IELTSの指導をするのは楽しいです。」

オーストラリア
IELTSコース教師
エリカ・テナント



IELTS試験官になるには

IELTSは世界中で認知度が高く、IELTS受験者の増加により、国によってはIELTS試験官の需要が高まっています。

IELTSをよく知る教員にとり、IELTS試験官になることは、キャリアアップにもつながります。

IELTSスピーキングの試験官になるには

IELTS Professional Support Networkが世界各国のIELTS試験官の募集採用からトレーニング、標準化、モニタリングシステムのサポートをします。IELTS Professional Support Networkは、ブリティッシュ・カウンシルとIDP: IELTS Australiaが共同管理しています。

すべてのIELTS試験官応募者は、

- 学位を取得していること (もしくは同等の資格)
- 外国語としての英語教育の関連資格を所持していること (もしくは同等の資格)
- 関連する教育指導の十分な経験があること
- IELTSバンド9相当の英語能力が証明されていること

次のステップ

IELTSスピーキング試験官になることに興味があり、上記の要件を満たす場合、お近くのテストセンターにご連絡ください。

IELTSライティング試験官になることに興味があり、上記の要件を満たす場合、ブリティッシュ・カウンシルもしくはIDP: IELTS Australiaのキャリアウェブサイトをご参照ください。

試験官システム

採用

要件となる資格と経験の他、試験官候補者の職能および対人スキルが、採用審査の3ステップ（応募書類、面接、トレーニング）で評価されます。

導入研修

選抜された候補者は面接を受け、合格した場合は導入研修を受けます。

トレーニング

導入研修を無事修了した候補者は、次にトレーニングを受けます。試験官トレーナーがトレーニングを行い、各セクションの所要時間は約1日半です。

認定

候補者は次に認定検定を受け、正確かつ確実に基準に沿って採点できることを示し、合格すればIELTS試験官として認定されます。

IELTSスピーキング試験官

1年目：モニタリング

試験官は、最低2年に一回モニタリングを受けます。新規の試験官（及びしばらく試験官として勤務していなかった者）は、初年度に3回モニタリングを受けます。試験官トレーナーがモニタリングを行います。試験官は全員、評価およびスピーキングテストの実施に対する書面によるフィードバックを受領します。パフォーマンスに問題が指摘された場合、是正措置を講じなければなりません。

2年目：標準化および再認証

標準化セッションは、試験官トレーナーのもとで2年ごとに開催されます。試験官の2年ごとの再認証日に出来る限り近い日程で標準化セッションが行われ、テストセンターで修了します。試験官は標準化セッション後、各種認定を修了し、採点基準を正確に適用し続けていることを証明します。

IELTSライティング試験官

ライティング試験官は、IDP:IELTSAustraliaもしくはブリティッシュ・カウンシルの試験官標準化マネージャーのモニタリングを受けます。ライティング試験官も2年ごとに標準化と再認証を行います。

7

リサーチに基づく 継続的な改良

IELTSで高得点を取るには、テストの4つの主な性質、すなわち、有効性、信頼性、影響、実践性に配慮することが鍵となります。これら4つの要素は、40年以上にわたり、世界中の学者、教育関係者、教員、その他専門家による多くの研究のテーマであり続けています。

IELTSを共同所有するパートナーは、IELTSテストの品質と継続的な改善の確保のために考案された大規模なグローバル・リサーチプログラムを展開しています。

テスト作成者は、応用言語学、言語教育学、言語評価、技術力の進歩により、テストの設計、開発、実施、評価に対するアプローチを絶えず見直し、改良、再構築を行う必要に迫られています。IELTSの着実な進化は、そのような要素が、大規模で重要性を持つ言語テストの開発に関与していることを明確に示しています。

IELTSリサーチプログラムにより、以下が担保されます。

- IELTS成績を利用する団体機関に対し、テストの継続的な利便性と時事性
- 英語能力の性質および言語学や言語教育におけるその位置づけに対する理解をより深めるために幅広く貢献している

内部リサーチ

内部リサーチ活動は、ケンブリッジ大学英語検定機構により管理され、継続的なテスト開発と検証に対する枠組みの中で調整されます。

ケンブリッジ大学英語検定機構は、数多くの講演や出版物、特に「*Studies in Language Testing (SiLT)*」により、言語評価の幅広い分野に貢献しています。SiLTは、テスト受験者、作成者、研究者が関心を持つ、言語テストおよび評価における様々な重要問題や新規開発に言及した研究書シリーズです。詳細はcambridgeenglish.org/siltにてご確認頂けます。

IELTSテスト開発及び検証業務に関連するリサーチは、*Research Notes (RN)*にも掲載されています。詳細はcambridgeenglish.org/research-notesにてご確認頂けます。

外部リサーチ

ブリティッシュ・カウンシルとIDP:IELTS Australiaが共同開発したIELTSリサーチプログラムは、より多くの言語学や語学テストのコミュニティとの継続的な関わりを確保し、IELTSパートナーによるテストの継続的な改善に対する努力を実証します。

1995年以来、この制度下で、16カ国の280人の研究者による130以上の外部リサーチに対する資金が供与されました。この一部のレポートが *IELTS Research Reports*として ielts.org/researchにて入手できます。

年間研究助成金

毎年、個人や研究機関がIELTSに関連する研究プロジェクトを実施するための助成金申請の呼び掛けをしています。助成金、申請のガイドラインはielts.org/researchにてご確認頂けます。

IELTSリサーチレポートには以下が含まれます。

レポート名	著者/出版元	発行年/巻
IELTS: Student and supervisor perceptions of writing competencies for a Computer Science PhD	Alexandra L. Uitdenbogerd, Kath Lynch, James Harland, Charles Thevathayan, Margaret Hamilton, Daryl D'Souza and Sarah Zydervelt	Online series 1, 2018
An impact study into the use of IELTS by professional associations in the United Kingdom, Canada, Australia and New Zealand, 2014 to 2015	Glenys Merrifield, GBM & Associates	Online series 7, 2016
Investigating the use of IELTS in determining employment, migration and professional registration outcomes in healthcare and early childcare education in Australia	Cate Gribble, Jill Blackmore, Anne-Marie Morrissey and Tanja Capic, Deakin University	Online series 4, 2016
Investigating the language needs of international nurses: insiders' perspectives	Carole Sedgwick, Mark Garner and Isabel Vicente-Macia	Online series 2, 2016
Transitioning from university to the workplace: Stakeholder perceptions of academic and professional writing demands	Ute Knoch, Lyn May, Susy Macqueen, John Pill, Neomy Storch	Online series 1, 2016
Stakeholder perceptions of IELTS as a gateway to the professional workplace: The case of employers of overseas trained teachers	Jill C Murray, Judie L Cross and Ken Cruickshank	Online series 1, 2014
The quest for IELTS Band 7.0: Investigating English language proficiency development of international students at an Australian university	Elizabeth Craven University of Technology, Sydney	Volume 13, 2012
A case study evaluation of the English language progress of Chinese students on two UK postgraduate engineering courses	Gaynor Lloyd-Jones and Chris Binch Cranfield University	Volume 13, 2012
Investigating stakeholders' perceptions of IELTS as an entry requirement for higher education in the UK	David Hyatt, Greg Brooks, The University of Sheffield, UK	Volume 10, 2009
Determination of appropriate IELTS band score for admission into a programme at a Canadian post-secondary polytechnic institution	Katherine Golder, British Columbia Institute of Technology, Kenneth Reeder, University of British Columbia and Sarah Fleming, Simon Fraser University, Canada	Volume 10, 2009

IELTSスピーキング評価基準

バンド	流暢さと一貫性	語彙力
9	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しや言い直しをほぼすることなく流暢に話し、言いよどむ際は、言葉や文法を考えるというより、内容が理由の場合のみである。 最も適切な接続詞を使用して理路整然と話すことができる テーマを幅広く適切に展開できる 	<ul style="list-style-type: none"> 全てのテーマにおいて、非常に柔軟かつ正確に語彙を使用できる 熟語を自然かつ正確に使用できる
8	<ul style="list-style-type: none"> 時折繰り返しや言い直しをするが流暢に話し、言いよどむ際は、言葉や文法を考えるというより、内容が理由の場合のみである。 テーマを理路整然と適切に展開できる 	<ul style="list-style-type: none"> 正確な意味を伝達するために幅広い語彙をすぐに柔軟に使用できる 不正確さも散見されるが、一般的でない熟語もうまく使いこなすことができる 必要に応じ言い換えができる
7	<ul style="list-style-type: none"> 目立った努力を行わずもしくは一貫性を失わずに詳細に話すことができる 言葉が理由で時折言いよどむことがあり、繰り返しや言い直しがある 幅広い連結詞や談話標識（文と文との論理的関係を示すことば）を柔軟に使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なテーマを論じる際に柔軟に語彙を使用できる 一般的でない熟語も使用でき、表現や単語同士の組み合わせにも配慮できるが、不適切な選択をする場合もある 必要に応じ効果的に言い換えを行える
6	<ul style="list-style-type: none"> 時折繰り返し、言い直し、ためらいが見られ、そのため一貫性を失うことがあるものの、すすんで詳細に話す 幅広い連結詞や談話標識を使用できるが、不適切な使用もある 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて詳細に論じることができる幅広い語彙力を持っており、不適切な場合でも意味を明確にすることができる 概ね正しく言い換えができる
5	<ul style="list-style-type: none"> 通常は途切れることなく話せるが、繰り返し、言い直しや、ためらいが見られ、かつ／または、話し続けようとするスピードが落ちる 特定の連結詞や談話標識を過度に使用する 簡単な話は流暢だが、複雑なコミュニケーションとなると流暢さに問題がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマ、そうでないテーマについても話すことができるが、語彙の使用は柔軟性に欠ける 言い換えが正しくできるときとそうでないときがある
4	<ul style="list-style-type: none"> 顕著な間隔なしには受け答えができず、話す速度が遅く、繰り返しや言い直しが多々ある 基本的な文章をつなげることができるが、簡単な連結詞を多用し、一貫性が維持できない 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマについては話すことができるが、そうでないテーマは基本的な意味のみ伝えることができ、言葉の選択にも間違いが多い 言い換えはめったにしない
3	<ul style="list-style-type: none"> 途切れ途切れに話す 簡単な文章をつなげる能力に限界がある 簡単な受け答えのみができ、基本的なメッセージを伝えることさえもできないことが往々にしてある 	<ul style="list-style-type: none"> 個人的情報を伝える際に簡単な語彙を使用できる 余り身近でないテーマについては、語彙不足である
2	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の前にたいがい長い間隔があく コミュニケーションがほとんど取れない 	<ul style="list-style-type: none"> 片言もしくは覚えた言葉のみを話す
1	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが全く取れない 評価できる言語を発しない 	
0	<ul style="list-style-type: none"> 受験をしていない 	

公式サンプルテストについては ielts.org/prepareにて閲覧して頂けます。

	文法知識と正確さ	発音
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を自然にかつ適切に使いこなすことができる ネイティブスピーカーの会話に見られるような「うっかり」を除き、総じて正確な構文が使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い発音の特性を正確かつ巧妙に使用できる 特性を一貫して柔軟に使用できる 無理なく理解できる
2	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を柔軟に使用できる 不適切さや軽微な／非体系的な間違いがまれに見られるが、総じて間違いのない文章を話すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い発音の特性を使用できる 特性を柔軟に使用できるが、時おりうっかり間違えることもある 無理なく理解でき、L1 アクセントが明瞭さに与える影響はほぼない
3	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の柔軟性を持って幅広い複雑な構文を使用できる 間違いの全くない文章を話せることも多いが、文法エラーは依然として存在する 	<ul style="list-style-type: none"> バンド6の全てのプラスの特徴と、バンド8のプラスの特徴を部分的に備えている
4	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟性には欠けるが、簡単な構文と複雑な構文の両方を使用できる 複雑な構文では間違いも多いが、理解に支障の出るようなことはめったにない 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い発音の特性を使用できるが、コントロールは不安定 特性を効果的に使用できる場合もあるが、一定していない 概ね理解しやすいが、個々の単語の発音の間違いや不明瞭な音が時おり混じる
5	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の正確さで基本的な構文を作成できる 複雑な構文の使用は限定的で、たいてい間違いが含まれており、理解の障害となることもある 	<ul style="list-style-type: none"> バンド4の全てのプラスの特徴と、バンド6のプラスの特徴を部分的に備えている
6	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な構文を作成でき、単純な文章には間違いがないが、複文構成はめったにない 間違いも多く、誤解につながることもある 	<ul style="list-style-type: none"> 発音の特性の使用は限定的 特性をコントロールしようとするが、よく失敗する 発音の間違いが多く、聞き取りが困難な場合もある
7	<ul style="list-style-type: none"> 基本構文を試みても困難であったり、明らかにうろ覚えの表現に頼ってしまう 暗記表現以外は、間違いが非常に多い 	<ul style="list-style-type: none"> バンド2のいくつかの特徴と、バンド4のプラスの特徴を部分的に備えている
8	<ul style="list-style-type: none"> 基本構文を作成できない 	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉が不明瞭なことが多い

IELTS ライティング採点基準—タスク1

バンド	課題の達成度	一貫性とまとまり
9	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件を完全に満たしている 詳細説明を含む回答が明確に記述されている 	<ul style="list-style-type: none"> 目立つことなく自然に接続詞を使用している 段落分けをうまく行っている
8	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件を十分にカバーしている 明確かつ適切に重点／要点を記述、強調、説明できている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見を論理的に配置している 全ての観点から文章を上手にまとめている 段落分けを十分かつ適切に行っている
7	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件をカバーしている (A)主要動向、差異、段階の明確な要旨が記述されている (GT)意図が明確に記述されており、統一性のある適切な文調になっている 重点／要点が明確に記述され、強調できているが、詳述の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見が論理的に整理されており、全体を通じ明確な連続性がある 適切に様々な接続詞を使用しているが、使用の仕方に過不足がみられる
6	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件に取り組んでいる (A)適切に選択された情報を含む要旨が記述されている (GT)文調に統一性が見られない場合もあるが、概ね明確に意図を記述している 重点／要点を記述し、十分に強調できているが、詳細部分が関連性を欠いたり、不適切であったり、不正確であったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見の配置に一貫性があり、概ね明確な連続性がある 接続詞を効果的に使用しているが、文書中や文章間(またはその両方)の接続詞が機能していなかったり、機械的であったりする 参照が明確でなかったり、適切でなかったりする
5	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件に大体取り組めてはいるが、所々の書式が不適切であったりする (A)明確な要旨がなく機械的に詳細を記述し、記述を裏付けるデータが含まれていない (GT)手紙は時おり不明瞭であるが意図が記述されている、文調に統一性がなく、不適切な箇所もある 重点／要点を記述しているが、十分にカバーしきれておらず、詳細にこだわる傾向がある場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 情報がある程度整理されて記述されているが、全体的な連続性を欠く 接続詞の使用が、不十分であったり、不適切であったり、多用しすぎであったりする 参照や置換が不十分なために重複が見られる場合もある
4	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件に取り組もうとしているが、重点／要点をカバーしておらず、書式が不適切であったりする (GT)手紙の意図を明確に説明できておらず、文調が不適切な場合もある 重点／要点と詳細を区別できていない場合もあり、不明瞭、無関連、重複、不正確な部分がある 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見は記述されているが、一貫性を持って配置されておらず、回答に明確な連続性を欠く 基本的な接続詞が使用されているが、不正確であったり、重複していたりする
3	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件に取り組めておらず、課題を全く理解できていない場合もある 十分に意見を記述できておらず、大半が関連性がない／重複である 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を論理的に整理できていない 接続詞の使用は非常に限定的で、使用している場合でも、意見間に明確な関連性を示すことができていない
2	<ul style="list-style-type: none"> 回答がほとんど課題と関連性がない 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を整理する能力がほとんどない
1	<ul style="list-style-type: none"> 回答が課題と全く関連性がない 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージのコミュニケーションができていない
0	<ul style="list-style-type: none"> 受験していない タスクに全く取り組もうとしていない 暗記した回答を記述している 	

	語彙力	文法知識と正確さ
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い語彙を単語の特徴を生かして自然かつ洗練された方法で使用でき、軽微な誤りがまれに「うっかり」起こる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を非常に柔軟かつ正確に使いこなすことができ、まれに軽微な誤りが「うっかり起こる」
	<ul style="list-style-type: none"> 正確な意味を伝達するために幅広い語彙を流暢かつ柔軟に使用できる 一般的でない語句をうまく使用できるが、単語の選択や組み合わせに時々不適切さがみられる 単語のスペルや語形成（またはその両方）に間違いがほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を使用できる 総じて間違いのない文章を書くことができる 間違いや不適切さがまれに見られる
が	<ul style="list-style-type: none"> 十分に幅広い語彙を使用でき、柔軟性や正確さも認められる 一般的でない語句を使用でき、表現や組み合わせにも配慮している 単語の選択・スペルや語形成（またはその両方）に間違いが散見される 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な複雑な構文を使用できる 間違いの全くない文章を書けることが多い 文法と句読点をうまく使いこなすが、依然として間違いが存在する
ら	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する十分な範囲の語彙を使用できる 一般的でない語句の使用を試みるが、不正確さが見られる 単語の選択・スペルや語形成（またはその両方）に間違いが散見されるが、コミュニケーションを阻害するほどではない 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な構文と複雑な構文の両方を使用する 文法と句読点に間違いもあるが、コミュニケーションに支障の出るようなことはめったにない
を	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の使用範囲は限定的であるが、課題に最低限必要なレベルである スペルや語形成（またはその両方）にかなりの間違いが見られ、読み手の理解が困難な場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な構文の使用は限定的である 複雑な構文の使用も試みるが、簡単な構文と比較して不正確になるきらいがある 文法や句読点の間違いが多く、間違いのため読みづらいこともある
で		
ま	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙のみを重複して使用したりし、課題に不適切な場合もある スペル、語形成（またはその両方）の使用は限定的である 間違いが読み手に負担を与える場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて限定的な構文の使用で、複文構成はめったにない 正確な構文もあるが、間違いが多見され、句読点にもしばしば間違いがある
、		
目	<ul style="list-style-type: none"> 使用する語彙と表現が極めて限定的で、語形成やスペル（またはその両方）をうまく操作できない 間違いによってメッセージが大きく歪曲される 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を試みるが、文法と句読点の間違いが多見され、意味が歪曲されてしまう
	<ul style="list-style-type: none"> 極端に限定的な語彙で、基本的に語形成やスペル（またはその両方）をうまく操作できない 	<ul style="list-style-type: none"> 暗記しているフレーズ以外に文章構成ができない
	<ul style="list-style-type: none"> 片言の言葉しか使用できない 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成が全くできない

IELTSライティング評価基準—タスク2

バンド	タスクに対する回答	一貫性とまとまり
9	<ul style="list-style-type: none"> 課題の全ての部分に完全に取り組んでいる 回答に対し、関連性のある、詳細で十分な裏づけのある理由を提示し、確固とした見解を示すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 目立つことなく自然に接続詞を使用している 段落分けをうまく行っている
8	<ul style="list-style-type: none"> 課題の全ての部分に十分取り組んでいる 回答に対し、関連性のある、詳細で十分な裏づけのある理由を提示し、熟考された回答ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見を論理的に配置している 全ての観点から文章を上手にまとめている 段落分けを十分かつ適切に行っている
7	<ul style="list-style-type: none"> 課題の全ての部分に取り組んでいる 回答全体を通じ終始明確な見解を示すことができている 主旨を示し、詳細と理由を提示できるが、一般化しすぎたり理由の論旨が明快ではなかったりする（またはその両方である） 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見を論理的に整理しており、全体を通じ明確な連続性がある 様々な接続詞を適切に使用しているが、使用の仕方に過不足がみられる 各段落には明確な中心主題が存在している
6	<ul style="list-style-type: none"> 課題の全ての部分に取り組んでいるが、詳述されている部分とそうでない部分がある 関連性のある見解を示すことができるが、結論が不明瞭もしくは重複していたりする 関連性のある主旨を示すことができるが、詳細に欠けたり、不明瞭であったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見の配置に一貫性があり、概ね明確な連続性がある 接続詞を効果的に使用しているが、文書中や文章間（またはその両方）の接続詞が機能していなかったり、機械的であったりする 参照が明確でなかったり、適切でなかったりする 段落分けがされているが、必ずしも論理的ではない
5	<ul style="list-style-type: none"> 課題の一部にのみ取り組んでおり、所々の書式が不適切であったりする 見解を表明しているが、展開が不明瞭であったり、結論が記述されていないこともある 主旨が記述されているが、限定的であり、展開が不十分で、無関係な詳細が含まれていることもある 	<ul style="list-style-type: none"> 情報がある程度整理されているが、全般的な連続性を欠く 接続詞の使用が不十分であったり、不適切であったり、多用しすぎであったりする 参照や置換が不十分のために重複が見られる 段落形式で記述されていなかったり、されていても不十分であったりする
4	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要件には最低限しか取り組んでおらず、回答が外的外れで、形式も不適切であったりする 見解を記述しているが不明瞭である 主旨を記載しているが、特定することが困難であったり、重複、無関係、理由づけが不十分であったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や意見は記載されているが、一貫性を持って並べられておらず、回答に明確な連続性を欠く 基本的な接続詞が使用されているが、不正確であったり、重複していたりする 段落形式で記述されていなかったり、されていても混沌としている
3	<ul style="list-style-type: none"> 課題のどの部分にも十分取り組んでいない 明確な見解を示していない ほとんど意見の記載がなく、多くが詳細と関連性を欠く 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を論理的に整理できていない 接続詞の使用は非常に限定的で、使用している場合でも、意見と意見の間に論理的な関連性を示すことができていない
2	<ul style="list-style-type: none"> 課題にほぼ回答していない 見解を示していない 意見をひとつひとつ記載しようと試みているが、詳細が記載されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 整理する能力がほとんどない
1	<ul style="list-style-type: none"> 回答は課題と全く関連性がない 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージが全く伝えられていない
0	<ul style="list-style-type: none"> 受験をしていない 課題に取り組んでいない 暗記した回答を記述している 	

語彙力	文法知識と正確さ
<ul style="list-style-type: none"> 幅広い語彙を単語の特徴を生かして自然かつ洗練された方法で使用でき、軽微な誤りがまれに「うっかり起こる」 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を非常に柔軟にかつ正確に使いこなすことができ、まれに軽微な誤りが「うっかり起こる」
<ul style="list-style-type: none"> 正確な意味を伝達するために幅広い語彙を流暢かつ柔軟に使用できる 一般的でない語句をうまく使用できるが、単語の選択や組み合わせに時おり不適切さがみられる・単語の選択や語形成（またはその両方）に間違いがほとんどない スペルや語形成にほぼ間違いがない 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な構文を使用できる 総じて間違いのない文章を書くことができる 間違いや不適切さがまれに見られる
<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する十分な範囲の語彙を使用できる 一般的でない語句の使用を試みるが、不正確さが見られる スペルや語形成（またはその両方）に間違いが散見されるが、コミュニケーションを阻害するほどではない 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な構文と複雑な構文の両方を使用する 間違いのない文章を書けることが多い 文法と句読点に間違いもあるが、コミュニケーションに支障の出るようなことはめったにない
<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する十分な範囲の語彙を使用できる 一般的でない語句の使用を試みるが、不正確さが見られる スペルや語形成（またはその両方）に間違いが散見されるが、コミュニケーションを阻害するほどではない 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な構文と複雑な構文の両方を使用する 文法と句読点に間違いもあるが、コミュニケーションに支障の出るようなことはめったにない
<ul style="list-style-type: none"> 語彙の使用範囲は限定的であるが、課題に最低限必要なレベルである スペルや語形成（またはその両方）にかなりの間違いが見られ、読み手の理解が困難な場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な構文の使用は限定的である 複雑な構文の使用も試みるが、簡単な構文と比較して不正確になるきらいがある 文法や句読点の間違いが多く、間違いが理由で読みづらいこともある
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙のみを重複して使用したりし、課題をこなすには不十分である スペルや語形成（またはその両方）の使用は限定的であり、間違いによって読み手が負担を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて限定的な構文の使用で、複文構成はめったにない 正確な構文もあるが、間違いが多見され、句読点にも間違いがある
<ul style="list-style-type: none"> 使用語彙と表現が極めて限定的で、語形成やスペル（またはその両方）をうまく操作できない 間違いによってメッセージが大きく歪曲される 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を試みるが、文法と句読点の間違いが多見され、意味が歪曲されてしまう
<ul style="list-style-type: none"> 極端に限定的な語彙で、基本的に語形成やスペル（またはその両方）を操作できない 	<ul style="list-style-type: none"> 暗記しているフレーズ以外に文章構成ができない
<ul style="list-style-type: none"> 片言の言葉しか使用できない 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成が全くできない

IELTSとヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の対照表について

語学力条件の設定を希望する認定機関は、CEFRをどのように利用したらよいのでしょうか？

ヨーロッパ言語共通参照枠は、共通参照ツールとしての目的を果たすため、厳格な統一化の基盤を提供するようには設計されておらず、また、標準化ソリューションを課す規範ツールとなることも意図していませんでした。主要推進者のジョン・トリム (Saville, N (2005)) によれば、むしろそれは、主に「考察、コミュニケーション、権威付けのためのツール」として、参照の共通の枠組みとして考案されました。テスト結果を利用する全ての人々が、IELTSバンドスコア概要を確認し、「IELTSスコアガイド」を使用して、学校やコースに必要な語学力の適正レベルを確定することをIELTSパートナーは推奨しています。

しかし、テスト利用者にとって、欧州評議会の「ヨーロッパ言語共通参照枠」が有用である場合もあります。様々な学習レベルの語学力の記述説明である枠組みは、いかなる言語にも応用でき、様々な語学資格の解釈や比較の起点となり得、ヨーロッパだけではなく世界中において、語学力のベンチマークとしての利用も益々増えています。

テスト利用者には、IELTSバンドスコアとCEFRの6つのレベルの対応関係を理解して頂く一助として、ケンブリッジ大学英語検定機構は、IELTSスケールをCEFRレベルに換算するための数多くの研究を行いました。その結果、IELTSとケンブリッジ大学英語検定機構の資格との相関関係を元にCEFRとの関係を示しました。

図1: IELTSスケールの「ヨーロッパ言語共通参照枠」への比較換算は、IELTSとケンブリッジ大学英語検定機構の相関関係、また、この明らかにされた関係とCEFRとの間の置き換えにより行われました。これに関する詳細情報は cambridgeenglish.org/cefrにてご確認ください。

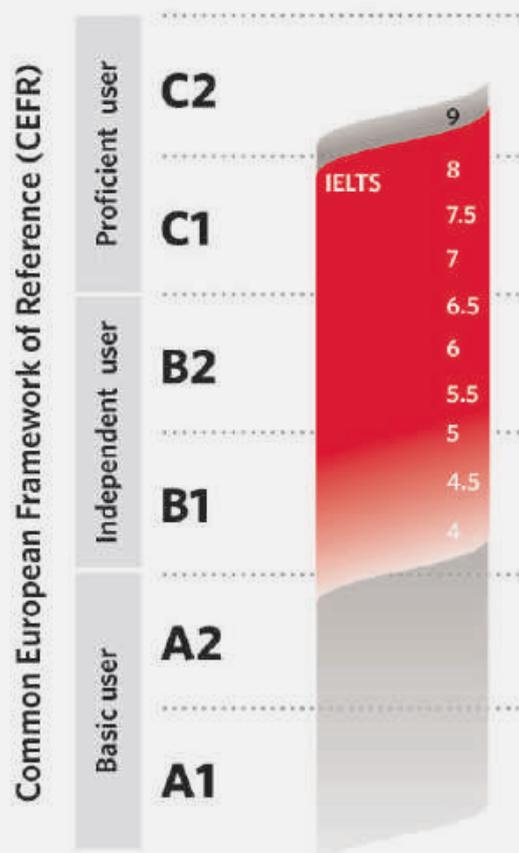


図1: IELTSとヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の対照表

一般情報

現在の様々なテストは、デザイン、目的、形式が異なるため、スコア間の比較を行うことは大変困難です (Taylor, 2004a)。受験者の適性や、そのテストに対する準備の仕方も異なり、個々の、もしくは受験者のグループは、あるテストで別のテストよりも成績が良かったりします。

枠組としての役目もあり、CEFRは意図的に広く定義されており、他のテストとCEFRとの対応関係を特定するのは大変困難です (Davidson&Fulcher, 2007; Milanovic, 2009; Weir, 2005)。関連性を確立することは一回きりの作業ではなく、むしろ、長期にわたる裏づけの蓄積を伴うものです (例えば、テストの品質と基準が維持されていることを示す必要があります)。

IELTSはレベルに基づいたテストではなく、より広範な能力域にまたがるように設計されているため、IELTSとCEFRの関係性は複雑です。また、異なる9ポイントのバンドスコアのシステムを利用するため、IELTSのスコアとCEFRレベルは1対1の対応関係にはなりません。テスト目的、テスト形式、テスト分布、比較時の測定スケールの違いに留意することが大切です。

上記を念頭に置いて、ケンブリッジ大学英語検定機構は1990年代後半より、IELTSのバンドスコアがCEFRレベルとどのように対応するか、多くの研究プロジェクトを実施してきました。これらの多くは、Taylor (2004b) が概要を記しておりますが、次のように指摘しています。「IELTSとCEFRレベルの関係の理解が深まるに伴い、参照枠も改訂を行わなければならない。」

図1で参照するIELTSバンドスコアは、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの個々のモジュールのバンドスコアではなく、オーバーオール・バンドスコアであることに留意してください。この図の意図は、IELTS成績とCEFR間の関係性を示すことであると認識することが重要です。Taylor (2004a) が挙げた理由の通り、対照表で示される異なるテスト結果の関係は、絶対的な尺度として解釈されるべきではありません。

現在の相互比較は、内外の研究成果に基づいており、その中のいくつかは論文審査のある学術ジャーナルにも掲載され、その質についても証明されています(例: Hawkey & Barker, 2004)。この研究は、教育や社会の場における長期にわたるテスト利用の経験、特定目的のためのテスト結果利用に関する様々な関係者からのフィードバックと共にまとめられています。

English Profileプロジェクトで実施されているような研究を続けることが、CEFRレベルについての理解を深め、更なる改善につながります。

詳細情報

Q1. 一部のIELTSバンドスコアはボーダーラインで表示されます(たとえば、バンド5がB1かB2かが不明です)。学校や組織はこれをどう解釈すべきですか?

IELTSの方がCEFRよりも先行したため、IELTSバンドスコアのしきい値はCEFRの遷移点と正確に一致することはありません。従前には(Taylor 2004a)、あるCEFRレベルの受験者がIELTSで取得する可能性のあるスコアについて示していました。しかしながら、我々の調査により、C1の最小しきい値は、IELTSスケールでの6.5と7つのしきい値の間に当たることが示されました。従って、多くの6.5受験者はC1になりますが、数はわずかながら下回ります。現在の表ではこれらももっと明確になっています。そのため、教育機関においては、申請者がC1であることを確実にしたい場合には、要件を6.5ではなく、7に設定すべきです。

Q2. IELTSはC2レベルで区別されますか?

8.5以上のバンドスコアはC2レベルの成績になります。バンド8は境界線です。

Q3. 生徒のIELTSスコアが6.5の場合、これはB2同等のスコアとして扱われますか?

6.5はB2とC1のボーダーライン上にあります。CEFRの特定のレベルとの換算は教育機関が決めることが重要です。それ以外の場合、一般的に言えるのは、IELTSバンド7.0はおそらく多くの大学のコースの語学力要件を満たしますが、ただ6.5ですと語学力がそこまで問われないコースであれば十分かもしれません。教育機関がスコア要件を設定する上で、例えば入学希望者が学期前又は学期中に受けることが出来る英語学習サポートの量や、個々の技能における最低スコアの設定など様々な要素を考慮する必要があります。

Q4. これは他の語学テスト実施者が公開している対照表とどのように比較されますか?

他の語学テスト実施者が提供したベンチマーク方法についてはコメントしておりません。

参照

- Council of Europe (2001) The Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment, Cambridge: Cambridge University Press
- Davidson, F & Fulcher, G (2007) The Common European Framework of Reference and the design of language tests: A matter of effect. *Language Teaching* 40, 231–241
- Hawkey, R & Barker, F (2004). Developing a common scale for the assessment of writing
- *Assessing Writing*, 9(3), p. 122–159
- Milanovic, M (2009) Cambridge ESOL and the CEFR. *Research Notes* 37, 2–5
- Saville, N (2005) An interview with John Trim at 80, *Language Assessment Quarterly* 2 (4), 263–288
- Taylor, L (2004a) Issues of test comparability. *Research Notes* 15, 2–5
- Taylor, L (2004b) IELTS, Cambridge ESOL examinations and the Common European Framework *Research Notes* 18, 2–3
- Weir, C J (2005) Limitations of the Common European Framework for developing comparable examinations and tests. *Language Testing* 22, 281–300

詳細情報は ielts.org/cefr にてご確認頂けます。

英語教員向け資料

受験者を指導し、受験の準備をさせる教員の支援の一環で、様々な資料が開発されています。

オンライン動画

IELTS YouTubeチャンネルには、多数の指導方法の動画を見ることができます。

- Bingo
- Chain writing
- Speed dating
- Reading race

以下で閲覧して頂けます。

youtube.com/IELTSOfficial

IELTS対策に有効な授業中のアクティビティ

以下のアクティビティは、生徒の特定技能を伸ばし、テスト全般の準備に役立つ方法です。

ブリーディング

以下は生徒の読解力の向上に役立ちます。

1. 文章のタイトルを伝え、できれば関連した絵や歌も添える
2. 生徒はグループで、文章に出てくると思われる単語、フレーズ、情報、アイデアを予想する
3. 生徒は文章を読み、予測の正否を確認する
4. 生徒が文章、表現、言葉に関する質問をする機会を設ける

グラフに慣れる

以下は生徒にとって、データをどのように伝えたらよいのかに役立ちます。

1. クラス全体で、ブレインストーミング方式で、授業以外で英語を学ぶ方法を話し合い、約8項目の選択肢のリストにまとめる
2. 生徒はペアになって、授業以外で英語を学ぶ一番良い方法について、学校の職員や生徒を対象にアンケートを行い、回答者の年齢、性別、国籍をメモする
3. クラスでは、生徒は大きなグループに分かれて集めたデータを公開する
4. 再びペアになり、くじ引きのような方法で、たとえば折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフなどの種類を選ぶ
5. 生徒はアンケートで集めたデータに基づきグラフを作成する
6. グラフおよびそれが示す情報をまとめ、序文を書く
7. グラフと序文を別のペアに渡し、このペアが本文を書く

トピック・ダイス

以下は、スピーキングテストのパート2で出題される可能性のあるテーマに慣れるのに役立ちます。

1. グループに分かれ、ブレインストーミング方式で、スピーキングテストのパート2で出題される可能性のあるテーマを話し合う。教師は、テーマがすべて関連性を持っているかについて確認する
2. 生徒はリストから6つのテーマを選ぶ。3つは好きなもの、3つは嫌いなもの
3. 全員で、ブレインストーミング方式で、テーマについて知っていることを話し合う
4. テーマには1から6の番号をふり、各グループにサイコロを渡す
5. 生徒は、順番にサイコロをふり、当たった番号のテーマについて話す
6. 生徒のスピーキングの持ち時間は1〜2分間。ブレインストーミングの際のメモを使ってもよい

ビンゴ

以下は、単語の聞き取りに役立ちます。

1. IELTSリスニングテストの聞き取りをすることを生徒に知らせます。例：休みの過ごし方についての会話、パートタイムの仕事の面接、等
2. グループに分かれ、ブレインストーミング方式で、文章で話される可能性のある単語について話し合う。個々に9つの単語を選び、ビンゴの枠の中に書き入れる
3. リスニングテストを流す。生徒はビンゴの枠の中の単語を聞き取ったら、その単語を消す
4. 生徒は列の3つの単語全部を消すことができたら「ビンゴ!」と叫ぶ



IELTS公式英語教員コミュニティーグループ
Facebookのコミュニティーに参加しましょう。IELTSの専門家や教員の方からアドバイスを受けたり、アイデアを共有することが出来ます。

受験者指導方法

受験準備資料や受験者へのヒントは ielts.org/prepare/にてご確認頂けます。

受験者には以下を推奨致します。

- 英語の語学コースの受講の検討。受験者の語学コースへの参加は必須ではありませんが、語学力アップのためには最も効果的であることが立証されています。コースでは、生徒は英語の練習の機会を与えられるだけでなく、英語力向上に役立つ建設的なフィードバックも必ず受けられます。
- Information for Candidates「受験者の方へIELTSのご紹介」を読みましょう。テスト形式、タスクの種類、制限時間、テスト手順等に関し、受験者全員が一読しておくべき必要ガイダンスが掲載されています。
- IELTSのバンドスケール (8ページ) とIELTS採点基準 (ielts.org/criteria)を理解しましょう。テストに臨む準備ができていないのかを生徒自身が判断する手助けになります。
- 家庭や職場や大学でも毎日英語を使いましょう。友達と英語で会話をしたり、英語の語学番組を視聴し、英語出版物を読み、どんな機会も逃さず文章を書く練習をしましょう。
- テストの各パートでの出題傾向をよく理解するために ielts.org/sampletest で入手可能な無料のIELTSサンプルテストを解いてみましょう。
- IELTSテストセンターでIELTS公式練習問題集を購入することをご検討ください。その他にも様々なIELTS教材が揃っています。
- バンドスコアと改善点についての講評が得られるオンライン模擬テスト「IELTSプログレス・チェック」(ieltsprogresscheck.com)を受験しましょう。
- 練習問題の解答に対する講評を受けることができるIELTS準備コースを受講しましょう。

受験者への案内

再受験について

IELTSの再受験には制限はありません。目標スコアに到達しなかった場合で、受ける準備が整ったと思ったらすぐにテストの予約をすることができます。但し、試験を受け直す前に英語力向上のためにある程度勉強をしないと、スコアは簡単に上がらないことにも注意してください(上記参照)。

詳細情報

以下を含むIELTSの詳細情報と資料は、ielts.orgにてご確認頂けます。

- 検索ツール'Find a test location'「試験会場をさがす」
- 検索ツール'Who accepts IELTS scores?'「IELTSを認定している機関は?」10,000以上の機関のデータベース一覧
- イギリスのビザと移民局に関連するIELTS情報
- サンプルテスト
- 国籍、言語グループ別の受験者平均成績データ
- 受験者情報小冊子Information for Candidates「受験者の方へIELTSのご紹介」
- グローバル言語テストにおけるクオリティと公正性

イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのビザおよび移民局提出用のIELTS

生徒がIELTSの結果を上記目的で利用する方法については、下記にてご確認頂けます。

- ielts.org/unitedkingdom
- ielts.org/australia
- ielts.org/canada
- ielts.org/newzealand

BRITISH COUNCIL

Bridgewater House
58 Whitworth Street
Manchester M1 6BB
United Kingdom
TEL: +44 (0) 161 957 7755
Email: ielts@britishcouncil.org

IDP: IELTS AUSTRALIA

Level 8
535 Bourke Street
Melbourne VIC 3000
Australia
TEL: +61 (0)3 9612 4400
Email: ielts.communications@idp.com

CAMBRIDGE ASSESSMENT ENGLISH

The Triangle Building
Shaftesbury Road
Cambridge CB2 8EA
United Kingdom
cambridgeenglish.org/help

IELTS USA

825 Colorado Boulevard
Suite 221
Los Angeles CA 90041
USA
TEL: +1 323 255 2771
Email: ielts@ieltsusa.org

IELTS は、ブリティッシュ・カウンシル、IDP:IELTS Australia、ケンブリッジ大学英語検定機構が共同所有しています。



Cambridge Assessment
English

ielts.org